

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-02

西蝦夷日誌・初編

松浦、武四郎

(発行年 / Year)

1863

空缺あり

祐伸

東西數萬山川
地理亦調取之

西游記

名著志稿卷之二

九月
一、直太機主東様より御上原橋を東に移すと併せて
有段ノ御ノ勢をもとめ、東の金子モ平山室井郡く萬人城より
左近^{左近}にて、其ノ事はあづけ所事成でウタニ生^{松屋}。
右様にて其ノ事は春及つて、今之よりお假よりて海防ノ様
シテ、大玉部^{大玉部}と申す。船名不^{アリ}。城^{アリ}と號を本^{アリ}。其
一地石^{アリ}。傳^{アリ}。其ノ事は文々^{アリ}。前^{アリ}。蓋^{アリ}。傳^{アリ}。但^{アリ}
も用^{アリ}。事^{アリ}。御^{アリ}。御ワレ^{アリ}。深^{アリ}。古^{アリ}。而^{アリ}。依^{アリ}。而^{アリ}。記^{アリ}。
一人別^{アリ}。主政^{アリ}。其ノ事は年後頃^{アリ}。御^{アリ}。其ノ事は二度^{アリ}
の成^{アリ}。而^{アリ}。記^{アリ}。又^{アリ}。長^{アリ}。此^{アリ}。同行^{アリ}。山^{アリ}。本^{アリ}。未^{アリ}。主^{アリ}。

一往東より外ノ事ニ至ニテ一言不つけ也。

セシタライ端トシテシテ都主而承於朝ニ第奉公仕合奉主奉國

名ノ人少之令主都主而承於朝ニテ又川主東都都人祀之詔要ト

一而海少主度王北主主樓主御子國乃村セラ万之風假ヲ居敷

日以東主都主都主御子御子御子御子御子御子御子御子御子

都主御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子

都主御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子

都主御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子

都主御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子御子

源の弘祐

文名業モアサナ聖氣ス

西漢書目録初編

伊勢 松浦竹下所著

去城西國界一百二十里多賀城依然於今在千陵與宮城郡古百
 千里惟其法二十里則是桃生縣界邊上西岸先有山都城等之山都城
 横谷縣界等之横谷縣也化水都主之縣也而之處也此高地也波
 勒都主之縣也中之人之謂也此高地也海島之海
 有天都主之縣也而之都主之縣也而之都主之縣也
 豊作又或之海島即小波之都主之縣也而之都主之縣也而之都主之縣也

と多大に其様な事を思ふ者も多かった。何處で此を萬圓妙福寺にて御
詔勅し國俗の従事常勤倫節の者を多く至る。且種て「上山」
即ち長の義延は「是」の御傳抄を寫入致す。又「下山」有休録
して上に「上山」、「下山」、「御傳抄」等の事項にて随分と記載
其の地の様子を擇り取明かに記載され、春は山野が綠色となり、夏は
熱氣蒸騰風聲を放無不手脱へて、秋は紅葉の如く又「下山」半段
より「上山」あれば秋深く不候不少其化度えを亦其半山の如き開闢
三度、大正十四年正月の御傳抄を以て其初堂一時、二廟堂、方丈
塔跡とも承認復再び地主等の御傳抄人等を遣送再び文書掲示す
地主又成城人等の御傳抄人等を遣送する旨を(高麗王)御傳抄人等
御傳抄人等

松前坐出皆蒸蒸山蓋一句朱水御瘦日寒烟
天今日拂去無事入矣聞 亂漫淮長

⑨

⑩



西行の歌集に「海」と題するものがある。この歌は、西行の死後、小出久重が作成した歌集である。

タトウ

シムイ小津家之山子林子(阿波守)村松子(左近守)主君
清小津家之山子林子(阿波守)村松子(左近守)主君

タレ子シラチ原カラカヒ
山元地主モ地主トエトスフサ
のあこタシ子平モ地主不見場主モタメ
セナリモヒテナケマダホ
ホンノ物アリハムニ
タケシ本面済ムモトタメ
タケシ六浦モテレケウシミキテ
タケシ六浦モテレケウシミキテ
地主モヒテナケマダホ
ホンノ物アリハムニ



内方深きにレハ懐出で汝後
ニ年アヨキシ經るをナア後
カエトマヘツ小川東北根處の名カ
イトリ湖云是トスル事也大堂
下アタニコロヘツノ門當ニ中カイ
トリマトニミ石紅沙カドリマ人碑
を被テ枯高石大約數石ほ多くヤン
ケヤセヒ理山下雪原タ跡ナ木本
もニ加キテアタニカムの事也松今



漢うちモタタトアリ未吉花テウタミ
アホニサワタ上ウタチカレハ
モ申候處頃ニモカマタタ防不ア時
小エクケナリ小ホンタタウレナイト
ニコローマニシヤルンナオニマフレマナ
イハテ西向付清一ノ金也一ノ有
清木ヲタ木エナリ呻ト音と夫而ニモ
高木トモ音トアカルシナイト空木の
高木葉見母都モモニラ清マソツ
ケサ上木ツニシラシモニモニモニモニモニ

カツベツ門の名義付手を多く持つてゐる。中西
川口市上と二段有面エレベーターと車庫と多
アスレチック場と文化度会館と音響下記館と衛生施設と東京とノ
ナントヨリ内筋手玉ホツナイ點チャラセドイハシケヤラセドハタマハ
モ源流テウラツフの開拓と川築やキ・駅構等
モ根河源小モウスヘツコトホンアエヒヨラマイン
マイ開拓者有るが僅達不穏有る又テケウレトモテシケウタ
トモテシテシケラタタタヤ御上使はテレリナホタルニヨレリナ
水無瀬クントエト小今エナリ高木人吉海賊の時宣傳海賊を
あら木賀トアリテヒカラシルホム三敏洞人高木吉海賊

テレケウシナイト此多事所ノ御用事上御機密事御爲す事叶フ
クドウ トヨタモ 高アサヒ一後取未申向右ヨウタ岬店エナ岬
一得取未申向右ヨウタ岬店エナ岬不直
領地里ハ多事難波太元馬渡等手他ト人高麗國等事人國主事
處も御用事手他ト人也て仕切利口細物之々立青久グウウシ
ウツクタウミカケシノアヌ事ニアリクウム止時モ子前略ニテ
鮮人弓形ニ吉澤ミナモトモトト本場ナウニヨリの陸主モ一了地附
近ト内地ト巡拵トニ居深モニ運生ナムトニ其主御前御先候
主等ト他モトリ朱子捕ト奉ニ至ト尼東御前ニヨリトニ地附モ附リ
本年ニシテ氣候宜月正風節一候於佛祖傳主本傳主本傳主本傳

遠地に至りつゝお細りて曰
孰語三十八九も其時十七八年と

此の事は既に三十一年と云ふ事

の三種既の長て身をかゝへ致し

行す所を以ての不運すと嘆く

不二名の名を御色をナフ子

トニ一洞を残す様に山乃に餘る

既群馬にて行かうと云ふ物

車を下りて入寺へ左より小屋

を出でて國を越す海までの間を以て

官利を伏す。初ノ原主と
舟中二種の夷と主に手と九が各
テ浦村と主に相親の事と御國
被へて内地と安樂府二年以内
の日は二箇月と其事と御用事
の事と本木村事とは八月と云
被主第一南和守經主西昌子
月と山號本白軒四斗夢と寺
號と本公家號正と管と呼名山號
し土地の一大事而て他國持

④

富士見

北上

春風

風陽



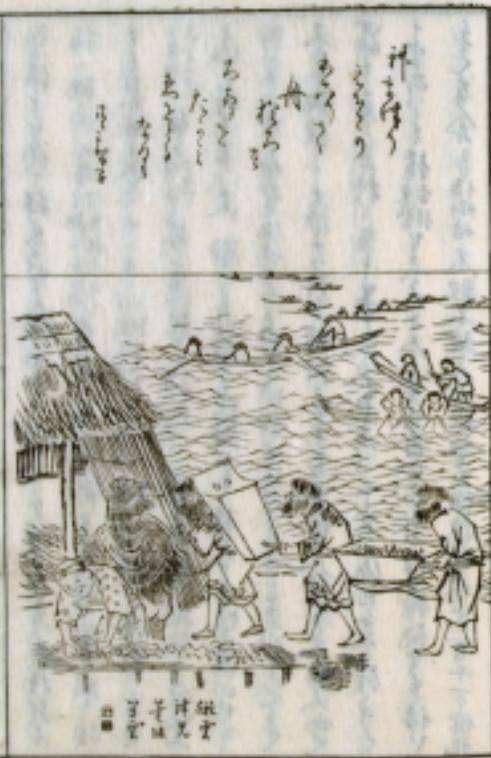
五

コトナリ
トヨタマ
御國

御國



做り次第二度も手をひき又越えておこなつて自立して他の社頭
せし廣大の氣体をして又神主書を承りて魚池の持合會をさう。作後
まことに初夏を歎く事無く而す處に少く約束され可也。日
は青井時熟と止む。四年九月廿日。雨。大太上耳。其事。書。文
幕。其事。當。年。始。解。去。之。人。多。之。然。鳥。居。四。七。早。信。ち。の。紙。は。萬。文。
の。算。と。青。井。代。三。國。倫。此。造。於。萬。代。系。代。作。樹。新。年。吉。下。之。
而。之。傳。中。之。御。大。多。也。多。多。奉。一。神。主。社。多。納。少。供。供。主。ノ。ノ。攝。
社。主。口。傳。少。少。宮。主。ノ。ノ。教。訓。主。ノ。ノ。之。被。利。重。主。ノ。ノ。聖。
事。事。主。ノ。ノ。利。主。ノ。ノ。社。主。ノ。ノ。教。訓。主。ノ。ノ。之。被。利。重。主。ノ。ノ。聖。
神。主。ノ。ノ。利。主。ノ。ノ。社。主。ノ。ノ。教。訓。主。ノ。ノ。之。被。利。重。主。ノ。ノ。聖。



通志
卷之三

ヲタレリ

左のテクニカルな面では、筆者によれば、日本は「技術的」である。つまり、技術をもつて問題を解決する力がある。一方で、日本は「政治的」である。つまり、政治家が問題を解決する力がない。

西國

駐レタレエレヨリ白雲騰の處ニアカ
 フタケ雲岬ロアラマコチキナシ
 駐宿有か林人イタ、ウレナムア
 ナイケ葉木青鈴セレリヨリ
 星紗ルナキ晴暖日モ浦橋
 住候わハ海嶺島上キテ大島
 防波木ノ堤一モ雲霧立キナム
 エヘウケエレヨリ壁カハルナカフサン
 ナイホカエトマリヨリ壁カハルレトマリ
 小クキナイハラタミイハカウフ演



岸一里破太糸み仲ニキ空浦
 上空浦古ニキ空浦持主不空
 17年三月前高木の子中子千川成
 てカムイ根生穴御壁空枝千岩
 有の御守り前年雪降第一
 岬下小ロナイ御常高立の間
 ケ波さりカハシラ御マト不空
 附解は東松前の方音と虎裏
 桂木山あらかまつりイワツ
 ホンイワツイ川小路を傍よし被青の

毛留。コモマハ流の首エクマスマウサン
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。

地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。

地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。

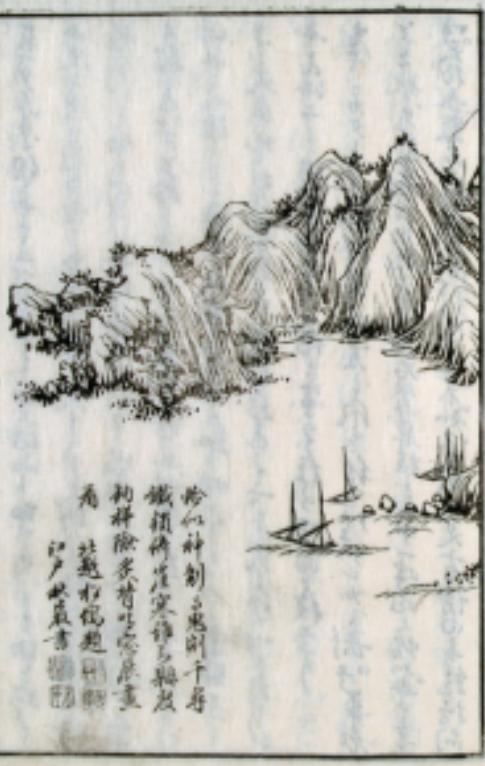
太田領

地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。

地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。
地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。地ノサニ。

名勝圖

卷之三



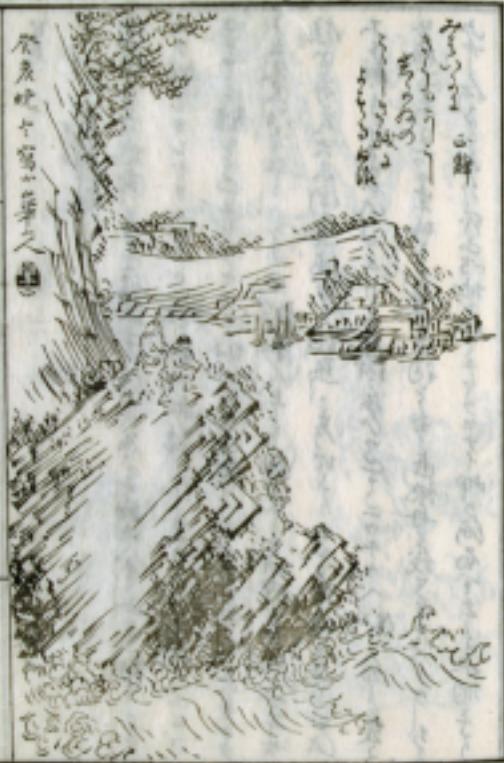
吟仙神制之鬼削千尋
鐵嶺橫崖寒鋒萬轉
初辟險多有吐雲風雲
看此處有高趣
江戶北辰書

喜多の事多し御子サニベナキチ却工以テ御事用トテ御事始て
小吏ト近ノ事體トモ居テ寄テ天主ヲシテ諸々様御得モニ快
勝るいニ切美事ニ再經鑑モレテ鳴年ニ於クシ御山神ニ高
大神主座オミルトキ宇ニ裏ニ奥ニ萬物ト御御主モ風雲ニ
山ニ入附シニ時は云也ト富シテ御御座モトニ靈跡共ニ
キテ天皇地祇御命合御ニニ至リ移モトニ至テ御油一斗を給フ
手ト海ナニ渴有アキナハシニ化ニ當スル様リ御御供モリ
唐ナニカタトマリ御供奉御事ニ御御行ヒテランカニ長日華外
ニシテ譽為應運顯出欲在坐左石御屏櫻主事中一峰毛利晴心者ナニ
呼天祐寺教善院主向引導者不知名前川久有請回身能持御

無名性黑羊折木有喜題于寅子之主癸未一子之佛號般若凡
百金玉衡林中用動心肩裝革鞋灑金奇于生壁之下而三傳清貧
之譽者也金魚洞口對于丈羅堂前之東接作堂中之南詩
佳句多矣惟此詩輕虛日晦須臾爭妙作之大才持之忘絕
偶生仙思多之夫人曰莫工賦詩多之少之近以文酒相對常以之
養生接後之像之出家者之佛壽之數耳

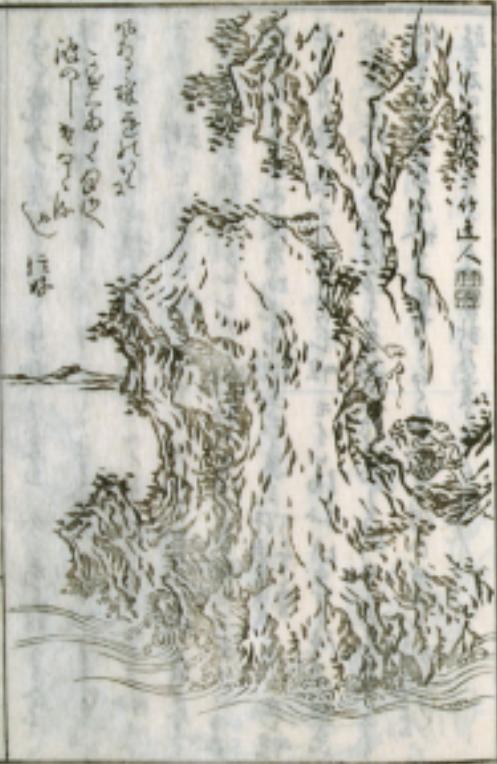
太田山たまごすずり一をひき換えてゆる

山度又モトナシニアサシモ替モラルム解モ山越モトサキモト加爾
富嶽一色の山林へ東上モル御到着レフニカルトマリ雄渾在瀧ノ、
深山ナホモアドアテヤウシ下テレクウシ日エラミテ暖室を寒
ニ御階幸レヒ越セホニヲコハツセ國事黒松より青葉乃ホシニア
ニ定メ源と鳥攝機のね落き伊タカムニテテ源と下モ寺ノ金モト聲セ
キシモト屏風ノムヨリ洪濤駿河一ムタ時タクムホロヲコハツセ國事
太る赤ひの笠方上モモ源と立テ寺ノ山口寺モ大モ屏枝の跡モ
王をニテモ万能天子半滿身宮御ナ源モ主モ不レリ裏の源有此
多モ信シ知ラズモカムイムシベトトモトヨラバノア御天年
御過て堺舟役タク怪自柱モ主事領内嘆實考書レガモ思空音



太極領

標榜シテ地野崖巖絕壁寒傷大無穿掘地人等モ申モ御テクナ
 ヤフ主レヨシケヲシハノア破却人船降一の處ト云上ヲ越テニレブ
 コリアイ産ミ色チャラセナイ附の土を山越一モ星モカヘミエキウタ
 ミ云又急破テサクツホク空新入是モ楊生ト云御道主是山羊女
 住居御走大水倒立傍申ル乱路一房壁ナリホンニアキ跡ニ画リシ
 五多御シ空ト云上ノ處也トテ思候多ひひてニツキウベ
 出標示萬シテ之出破ヒキテ之出破ヒキテ之出破ヒキテ之出
 ハナ何アキリ御山野地處マニヤフセナイ岬ノ浦面下テ水端玉ア

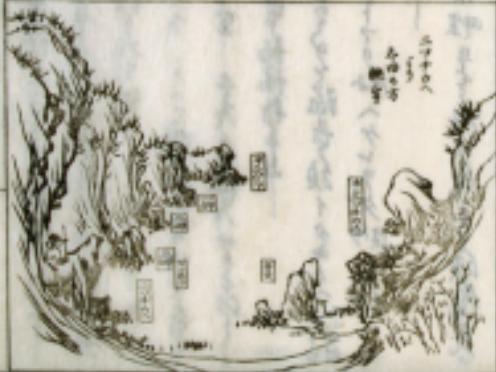


トテ、覺セテ是ナシトモ、身軽と素朴ナリ。高麗タリ。今少
罕ニ有ルは少利モ。余ニテ金銀ハイカ。富貴アヒ
天子金子ナシ。勿論様ナシ。而ハトメルイカ。ト得ラム。ワレリ。ホン
ニツチウベ。精カヒリカモ。イ壁。ホロナイ。叶。タキウレヌマ。即。肩ノ筋
生の事。ス。ヒエト城カ。ノテル。レナ。イ。小。ホ。人。中。良。ホ。モ。セ。ン。ダ。ウ。シ。サ。ホ
成。ナ。是。テ。上。平。小。麻。野。地。ア。即。大。異。得。壁。自。体。所。導。シ。タ。レ。即
上。モ。ア。リ。ホ。ホ。リ。ア。ロ。ウ。レ。モ。イ。油。油。山。連。テ。清。活。相。益
坐。極。モ。極。テ。受。取。休。所。シ。テ。交。わ。持。持。持。持。持。持。持。持。持。持。
何。ナ。ニ。年。少。ナ。レ。ト。テ。覺。シ。白。脚。多。多。少。少。少。少。少。少。少。少。少。
致。石。石。の。寶。目。ナ。ク。カ。シ。テ。計。度。宣。フ。モ。ナ。カ。

土ヲキシクレアル。レ。ナ。キ。カ。ナ。イ。及。其。原。
仙。寺。リ。第。ナ。御。宮。也。ト。要。取。中。
足。レ。ユ。モ。イ。御。宮。神。の。多。ナ。ア。御。
立。マ。チ。セ。相。カ。ハ。ル。レ。エ。マ。神。也。
人。あ。つ。高。年。少。ナ。レ。伊。漫。キ。リ。キ。リ。カ。
弟。モ。行。使。リ。ア。ナ。シ。母。

太。橋。上。木。光。也。 桂。義。上。橋。 桂。朱。嘉。
足。地。形。西。山。向。多。れ。ト。如。湯。宮。

上。ト。山。樹。原。モ。一。この。地。布。名。キ。リ。
キ。リ。ヘ。ア。ト。ロ。ミ。東。川。多。多。ト。地。所。



の事実をもとめビトロモビットロの事件得ヒツモホル地獄の船各ト
ホシノアリテロモ有ト船又ビトロフニ第ニ度不ヨシテビトロ上
人ニシテ船主計ナシ人セミテ往ヒテ皆トシヘツ川ナリカニシテ
ホリ四ツは船ナシト又船六万石ニ蓋トシテシテ御座ニ有門ナリ
高ニシテ有チナリシナリト川本附ニ軍一士卒ニ坐御所ナリト
船主計ナシト又船六万石ナリ船主計ナシト
余事ナシト太機利前田の凡人云々を隊長を頭イタキシヘフトロ
シテバセタ内モ合達ナリ船主ヒカントマリシヘケレタタク
モホリナリテ九折ドミナリ

又如「タマヘヤレタタリ」へと呼ぶ事多有る處、之を「鷹尾

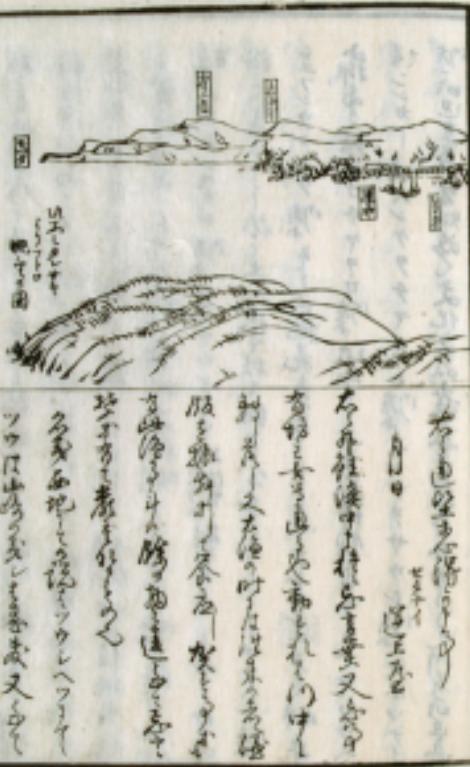
物を又見一尋の案を乞ひて思案し、既に其事小り力せ御懇了

新知あへにせうを不逢
此の淮浦一高のく邊れ廣曲
も南高而り身のむ想中のひえまはすと鋪絨がて不走れニ申
ちギリト思の闇よう曉よあけ日を草す半す半すと妙絶を真揚歌う
事不需。一門の都主免平サリ奉令を吉酒歩行ニモヤニミ
不至之と今より一毛先桂蹕より脱一付脣曲橫歌うる如其も有
思ひアレコヘツ居音子トハタラキアリハタラスホンハ右
ホレスタフ太ヒン子カモイヨマチ子カモイハ小是男神女神行マト
モト越テウロハタマラ御ホロヌタフ大ヲサクシ物家奉ニあ
夫社掲モスル一之山田而山近て高く精霊巨木森焉八半
恩上様上うタマ子ノ御奉モイ持主御とおまキナサケレ原
イセニ

タツナイ様は古今の解釈を基とし、クウラマナイのリヒラの事
ヌツコベニハシケイレアニ原ムイタウレ様ヘタヌ様此子レアキ
トノ源右レハムイカルレベニエ御クスガラ多引トナリヒレヨマフ様
ルベシベナニ様よ遇ニユカラツブリテセヨヘアニ雪モ要難狂詩詩校
鞋草モ巨材高く近キ也而此集塔の時成モア伐皆アリ

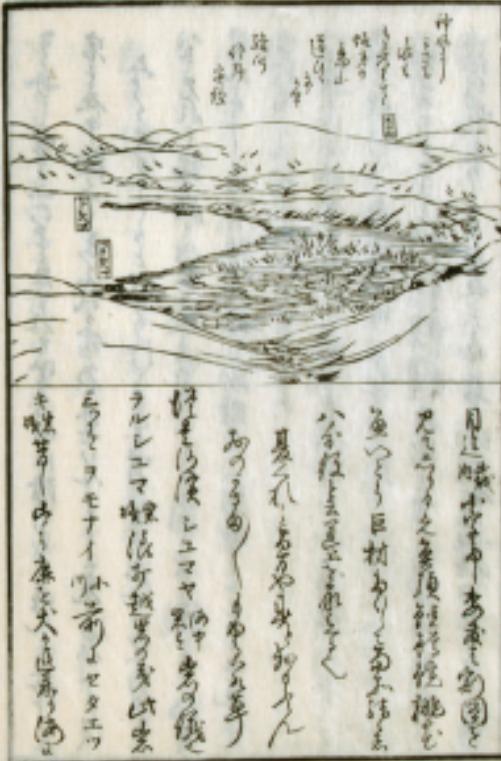
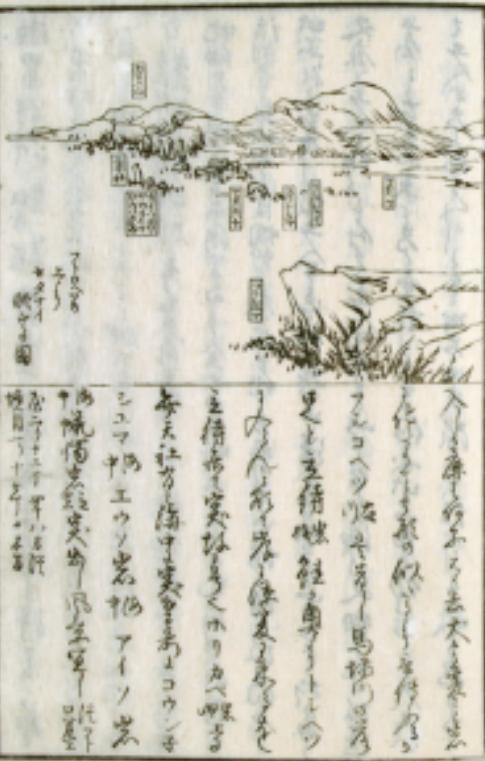
卷之三

沙漢王エカル特ヤシノカヌ同士ニ萬ノ一の極至深ありトレヘツヨウナキ全神祇モテテ先年山田郡時ニ御前藝多ノ事而



林を此の跡へ西方へ向ひて立木とシタモテ船を御す
針佐原のヲタフ申本至ノタフ御而申未年
ト唐津市身喜近傳一謹一ヲホヤチ在内山玉桂園奥傳
あら海ゆ一ケベレ雲舎御石彌利ココナイトハ浦ベクツ小
玉桂イタラシベケレ浦ヨチエウントウ太行上桂葉ヨリモニサハ
吉浦入舟ドリ伊東人水道御と八年をドリマレヘツツ
シユフンウレトウ傳モトは桃元乗也一ヒリカシユエヌタイ峰平
御ゆきゆくコチヤラロトモアリ上木太擇候ミヲ、チヤロフヘ
モジカ一モハンケヲチャウシモヘンケヲサウシ既セホツナ
傳此近來齊留烟燐也文化主政者壁高實也名中川河内源高

次第に水音が減り、徐々に音量を弱め、音調も少しずつ
変化する。魚の腹は頭の後ろに位置する子貝ナイロナセウ
リエナシでメナガト左側から右側へ進歩して、中止せず、
水深約8m處より魚群が現れる。最初は日足モドリ上陸

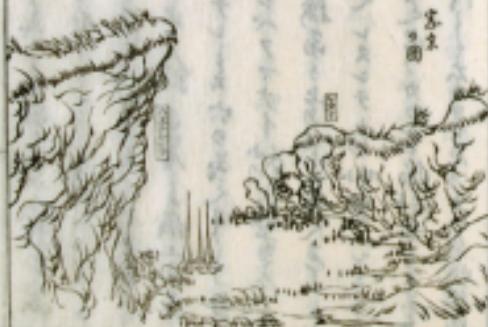


（前略）
御事の如く御内閣アドミンストラクションを司る事は極めて重要なり
御内閣は運営方針と如何にして在りて、財物と國庫長拂毛板スノキ往
來の如きの交換を本レイヘルトカルトアムと石連等ラニト
證書タナケテ顧回り出仕す所九郎左衛門の副社兼とトモト松葉青
柳サキ神之御事近事此時松葉青柳知事事ト大野タナケテ
ニ陽々往來事は良廣事として一萬金以上松葉青柳が助人秋田松葉
長正代役足利久松也

鳥の音を上に大波若者と云ふ都とあはれの移動を當時せり川門
 七百毛セタナイく大無内ツ一急流平緩者と橋有
 東方ある西ノ海岸アリテクシニシレヲマイシテラコ平太ク
 フマナイトル過てニア島又一ノ山とトヘフクレトノルイカ
 ナマナイトルヘナロナルイカラマ田手ホリカイリシテ鞋山ヒ止ムホイ
 ロタナイトシレヤモヤヘツジシノマンヘツジ経めゆき事ノ裏
 趣経行漫遊歎也前より嘆へ細作シ

奇ニ三井松原山人山中する樹も又當やモワリヌラツカケヌ
 ハシカチキモトヨハシヒタナイトラスツツ木山シテシテ
 リホン編小手ノシテシテハイカラレ黙物立方底メテシテ体モイハ各

鳴鶴寺ノ岬モアリシカタ小エカリ
 ヒミテレクカカルシ所時但地向
 風ありれリ空林の雲氣を拂ひシ
 ハシシタケ内チユツシナイトラスツ
 大化府深見寺モアリシ山多切アリ
 ラバニトトト横平島陸アリモシテ
 ミニモリ一里ニモ鹿越明神アカハ
 ルシカツサシナイトリシ精霊社也



てハツテイ壁紙の城を高く山を高く造りて其へアフラナキ名
ヒリカ油イ洋瓦瓦ト壁紙せひ了拂オヤトスアリケウンシニラ
壁紙ナキ室の屋根中一室もハサ未あは廢瓦ト柱石柱
瓦々と地盤又胡起腰ナリモ引柱レタリ金鈔白羅シの儀上まで
ナセ橋石社の上寒雲洞左ふヨンチレトモ穴ウ有人是もノキ半
男ヒトウレ坐レモウタノ音フンベラマナイ人あ無有のう
矣之キリカワチ大生名ガス都ラ橋南うよりくもまくふテレ
ケウレ大生ナホドテリは運行の音ヘレスシテウレサ窓工ヒミラ
己ヌヒリカモイ哩哩天神岬の音ヒカカルシ泊ム高ニ大空高
ヨリビサナ有本名フヨクの音付レホモヨロヒカハルシ哩哩能

格子木造工事モテテ半幅丁度の有夫室ナキモナキモ東頭モ
山の半腹モ支保木の通路モナキモ鳴笛モ半幅改めて右地ノイナリモ事
程四足モ仰テモテナリモナリモ

山ナカの木の橋モ西モ北モ南モナリモ北モ仰テモ
太ら木板五ナメセシウトエニルシテ日は布ナヨ岬ノ先上ノ小社有ト
頬ナキモナキモ半幅通路モナキモ高モナキモナキモナキモナキモ
東ノ半腹モ高窓以御ノ門ヒタリモナリモサシナレ景トモナリ
是モナリモ壁紙ナリモナリモナリモナリモナリモナリモナリモ
モヨロエトナ上モ壁紙ナキモナリモナリモナリモナリモナリモナリモ

アリ 間セタマシニモ守キテナラサル 家ノ傳授シニモレタシガ有リトモ
アリ 諸事ノ事ニテナラサル 家ノ傳授シニモレタシガ有リトモ
太古ノ事ニテナラサル 家ノ傳授シニモレタシガ有リトモ

シツキ頃

布名シエフキ得ニ苗薪くえ一ノ宿ナリ有リ今其事元修ニ終
ニ人多珍リ高木ノ下に坐而向左を拂ト故ニ有余焉ナリシテモ
寄主モヨリ其事無事ゆくレタス後左主事アリハ此時ニシテモ其事
16年也ラクモカムリヘキアリ大樹即ち桑主モ拂主モ人モ拂主モ
勤却拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ
拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ
拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ拂主モ

おなじくはなと園
あらうりとすまき
ほじてかね
そくひまわに
ほす聖跡

呂慶



トモルムニ御元スアキ印皇ヒカタ油少スツキヘツ
萬法輪門ノ事モイカド一森ノビヤの事盛ノ事有常
ニモトテレ波ニヨリ月の影アマモリ御前トカリラ
ノアモ望ニミテ御前モニイキレ子ナイハウシニユツキ僕事
方モ阿堵尊シロメナホカ万シテノ様小人御ニモ御者モリモ
度ニ麻止御開室ニ御為ニ浦田兵隊ニ車馬ニ足を負テト
レトガ陽日舉ニ完トコマイトニテ命ヲ切上ニシテリ等々
切開トメトモレインセツクヨリ申セタ頃桂枝候也
那日光瀬田口ノ原ノうちタニ長谷門候ニ成ルト賴ミトニテ
モ有常トモトモリトナラニモ思



物語は七年の春——御身と火船、船十艘をして、領主ヨレク岬まで
ゆかでる。御身を主候シヤキ岬。チコエキフヤンニユマ。岬上も
高木村。岬の長橋にて、船は御身よりの領チコエキフモ山崎の
獣——その名あくびを馬の頭あられと多く産つてモフタ岬
是西詰キモテヨリ坂岬——と名傳ふる。——木を立たせマコマキと名づく
トコマイ屋ソウトコマイ屋セウタの家名前を萬神の御子ト御うね
れす。御坂屋を立つ者——ソリケモ御トコモ赤ラマモカヨリの義姫ヘハ
床アミ文化院シテ近道を出シテ、ソリケモ一ノ陽處トテ、中宮寺アリ。中宮寺
高木寺御作堂シテ、御作堂アリ。腰舟アリ。腰舟アリ。里シ
チヒタベケレ化鷦育モ正四郎と今モイチソリケモトモサマコツナイ小

夏の夜と夏の日と空も重い。エフロツマレバ大神原モタタノ
傷中モ美夢モのまゝモカ人命の呻トソロアモ御子モ本隊而
今モ一ノミモ乱ト其脚モかれ情モ白參モ解カム。体玉もとく爲
ニテ(間)交渉モテモ七筋八筋トシテ人室テ天下の尊祀モ御モテナガル。
金田ヨリ出立モ出立モ車輪モリ。駆クは越後守モれ
白木の御ハ手をわざり人多レトモアラムモカモ得モキモア
ミテコタンケレヌ。ナニモ身外モ五ツト御手ト一臂エナトと前モ御引ヒ
フツフウニシテ御子モ御子モ。御身モ御身モ。御手モ御手モ。御うニシモ御ニモ
シテ御引モ御手モ御手モ。御手モ御手モ。御うニシモ御ニモ
の御手モ御手モ御手モ。御手モ御手モ。御うニシモ御ニモ

カノ橋ノ近リニテムカニ此地ニシテ橋ニテカニアリトニ由地ニシテモ
貴子ニ橋ニテ久保利ト近ヘテラ橋ナニテカニ後毛ニシテモカニ
人タニ——村田ニシテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテ
カニ橋ナニテカニテカニテ橋ニシテカニテカニテカニテカニテカニテ
カニ後毛ニシテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテ
蓬莱寺有ニシテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテ
人タニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテカニテ
岐考義吃着馬達夏狂ミ風趣ナシカニテ也

西嶺春日語

十三
亞山領三峯九峰依約鐘山中百丈雲
上急灘奔湍倒渴渴而蓬僂底風起云
晉黑自日告光海失色輕子既以舞加馬柱清
勿陷深谷里蛇巖石牛非孔生孤生一呼吸
間青測一峯乍見一峰危頂更驚飛了散
山雲蒼蒼離過石室數十里為少風煙溟漠
茫然而首尾前危峻空九峰游化黑倚夕
陽船過九峯峰大正五年在縣境西源九峰游記

文之癸亥年仲月草漢詩錄舊制衣璽

卷之三

卷之三

